



開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

休館日 7月15日~同19日、12月25日~同31日

このほか、展示替えのため一部展示室が休室のことがあります。

観覧料 常設展料金 ()内は30人以上の団体料金

一般 ... 500円(450円)

小・中学生 ... 250円(170円)

テーマ展

開催中(4月9日(火)まで)

「彦根藩の砲術」

4月12日(金)~5月7日(火)

「井伊家伝来の茶道具 - 炭道具 - 」

炭斗・羽幕・火箸など炭手前の際に用いる道具を展示します。



赤染灰器

常設展から

4月10日(水)~5月6日(月・振)

国宝 彦根屏風

年に1度の公開です。どうぞお見逃しなく。

4月12日(金)~5月7日(火)

月次茶器(12ヶ月棗) 大名物 宮王肩衝茶入



国宝彦根屏風(部分)

4月の催し

13日(土) 14:00~ 観覧料が必要です
ギャラリートーク・テーマ展「井伊家伝来の茶道具 - 炭道具 - 」

本館学芸員 谷口 徹 (たにくち とおる)

27日(土) 9:00~11:30 (受付時間)

新企画「子ども歴史相談室」

彦根の歴史について知りたいことを、博物館の学芸員といっしょに調べましょう。(事前の申し込みは不要です。)

27日(土) 14:00~

講座「湖東焼の経営」

本館学芸員 谷口 徹 (たにくち とおる)

第30回 彦根城能

5月18日(土) 13:00~

凛とした空間の中で、冴えわたる妙技をお楽しみください。

演目・出演

観世流 能「千手 鄧曲の舞」
梅若吉之丞、梅若善高ほか

大蔵流 狂言「佐渡狐」
茂山千之丞ほか

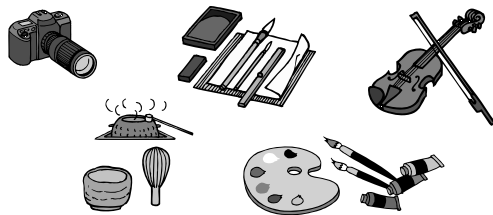
観世流 能「野守 黒頭」
梅若猶義ほか

指定 A席5,000円 B席4,500円
【4月18日(土)発売開始】



第29回彦根城能から

応援します 市民の文化活動



市では、市民の文化活動の活性化を図るため、市内の文化団体が実施する事業に対して補助金を交付します。どうぞご利用ください。

業、政治的・宗教的な宣伝意図を持つ事業などは対象となりません。補助金の額 補助対象経費の2分の1以内で、5万円を限度とします。申請方法 6月28日(金)までに、所定の補助金希望調査書(団教育委員会事務局 市民会館2階、各地区公民館、市役所1階受付、支所・各出張所、市立図書館、ひこね市文化プラザ学習情報コーナー)にあります。に必要書類を添えて提出してください。



補助金の交付まで 提出された書類について審査し、補助金を交付する団体および金額を内定してそれぞれの団体に通知します。補助金の交付は、事業の実績報告書が提出された後になります。問い合わせ先 団教育委員会生涯学習課 ☎247971番、FAX ☎91910番

茶の湯の名脇役 - 炭道具

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ



第68回

茶の湯の世界がもつとも基本とするところ、それは一服の美味しいお茶のたて方に尽きます。茶の湯にはさまざまな流派があつて、作法は若干異なりますが、おいしいお茶を追求する姿勢に変わりはありません。

この炭手前ではたくさん道具を使用しますが、これら道具を一括して炭道具と言いますが、炭道具は炭斗・羽幕・火箸・環・釜敷・灰器・灰匙など、その種類は豊富です。火箸は分るけれど、それ以外はあまり聞きなれないものばかり。でも一見すれば、名前は知らなくとも用途を推測できるものがあるはず。近年まで、私たちの身の回りで使われてきたものが、かなりあるからです。茶の湯の世界が、日用品をすいぶん取り込んでいることが、お分かりいただけるものと思います。

でも炭道具は、茶道具の中ではあくまで脇役。茶会で脚光を浴びることはあまりありません。色彩的にも地味なものが主体です。しかし、それでいてキラリと光る優品が潜んでいるのです。まるで映画やドラマの名脇役のように、名脇役の存在によって茶会は濃厚味を帯び、主役がますます引き立つのです。時には、日ごろあまり気に留めることのない茶道具の名脇役たちに注目してみましょ。きつと新しい発見があるはず。 (彦根城博物館学芸員 谷口 徹)



写真左:青鷲羽幕(青鷲という鳥の羽で作った幕、彦根城博物館蔵)
写真右:唐物六角炭斗(炭を入れる中国製の六角形をした容器、彦根城博物館蔵)